

2022
HISHIMA

FREE
SCHOOL
HUG-K-UMI

2022.04 ~ 2023.03

成果報告書

- 01. アンケート
- 02. 3つのステップ
- 03. コース紹介
- 04. 生徒インタビュー
- 09. 離島留学の過ごし方
- 10. はぐくみからのメッセージ

HUG-K-UMI



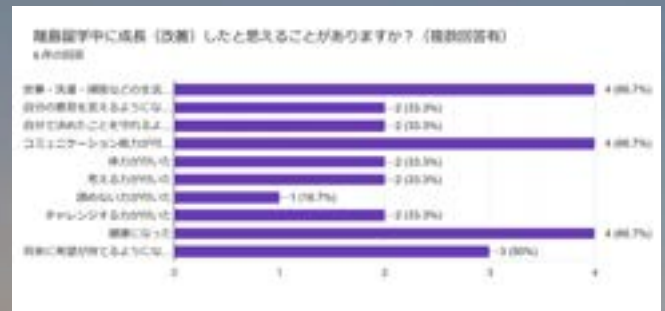
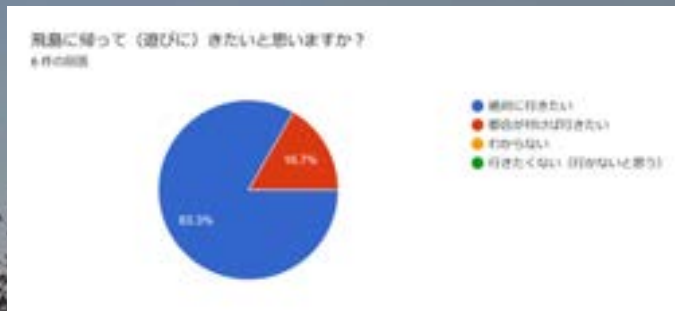
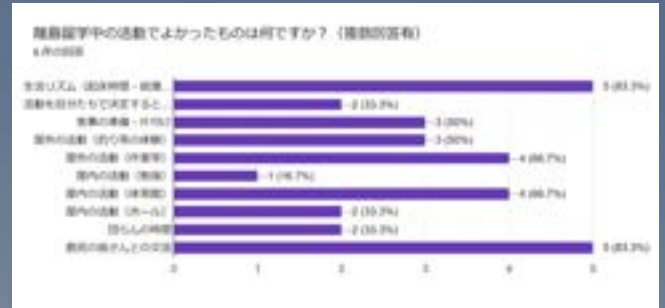
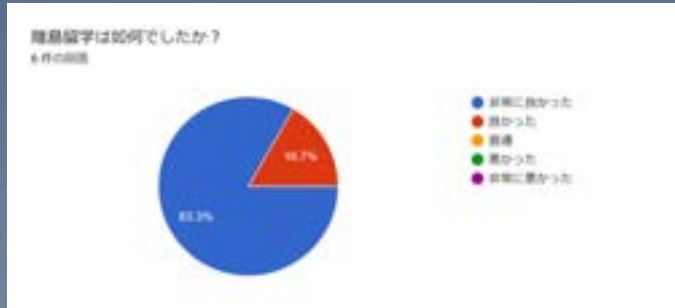
育 はぐくみ 海

retreat free school

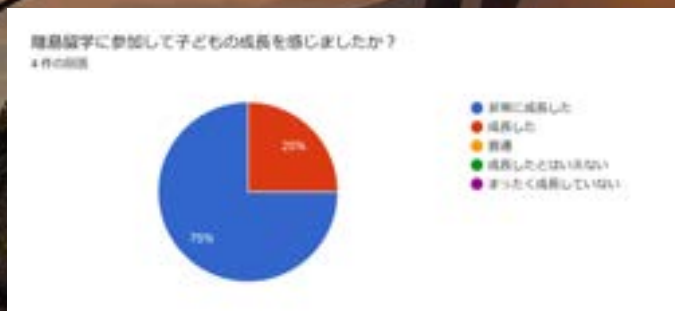
2022年度 離島留学アンケート

FREE SCHOOL HUG-K-UMI

生徒アンケート



保護者アンケート



2022年度 離島留学生 前期3名 後期5名

生徒対象アンケート：離島留学満足度 / 100%（非常に良かった・良かった）

保護者対象アンケート：子どもの成長を感じた / 100%（非常に成長した・成長した）

子どもたちが求めているのは、便利さや快適な環境や行き届いたサービスではありませんでした。不便でも困難でも、そこに役割があること。信頼できる大人や仲間がいること。やりたいことが実践できる環境があること。子どもたちはそのような居場所を必要としているのです。

フリースクール育海の3つのステップ

FREE SCHOOL HUG-K-UMI



ステップ1

エネルギーを補う

安心できる環境で
いっしょに「暮らす」



ステップ2

エネルギーを使う

溢れる「やりたい」
をどんどん叶えよう。



ステップ3

エネルギーを蓄える

さあ、自分の未来を
見据えよう。



飛島が、君の心の
「ふるさと」
になる。



岡山県笠岡市の離島、飛島（ひしま）。2023年現在、居住人口は20数名となり高齢化率は95%を超える。商店や交番、病院も学校もない島で、子どもたちの笑い声が響く。フリースクール育海では、この豊かな環境の中で育まれる子どもたちの力を信じています。私たちから、何かを与えたり、教えてあげたりするようなことは原則しません。大自然に包まれて、元気を取り戻していきます。



週末通学

コース

好きな時に、遊びに来れる。
日帰り島生活体験。



離島留学

コース

6カ月以上飛島で暮らす。
※2023年度より1年間



2022年度離島留学生
インタビュー

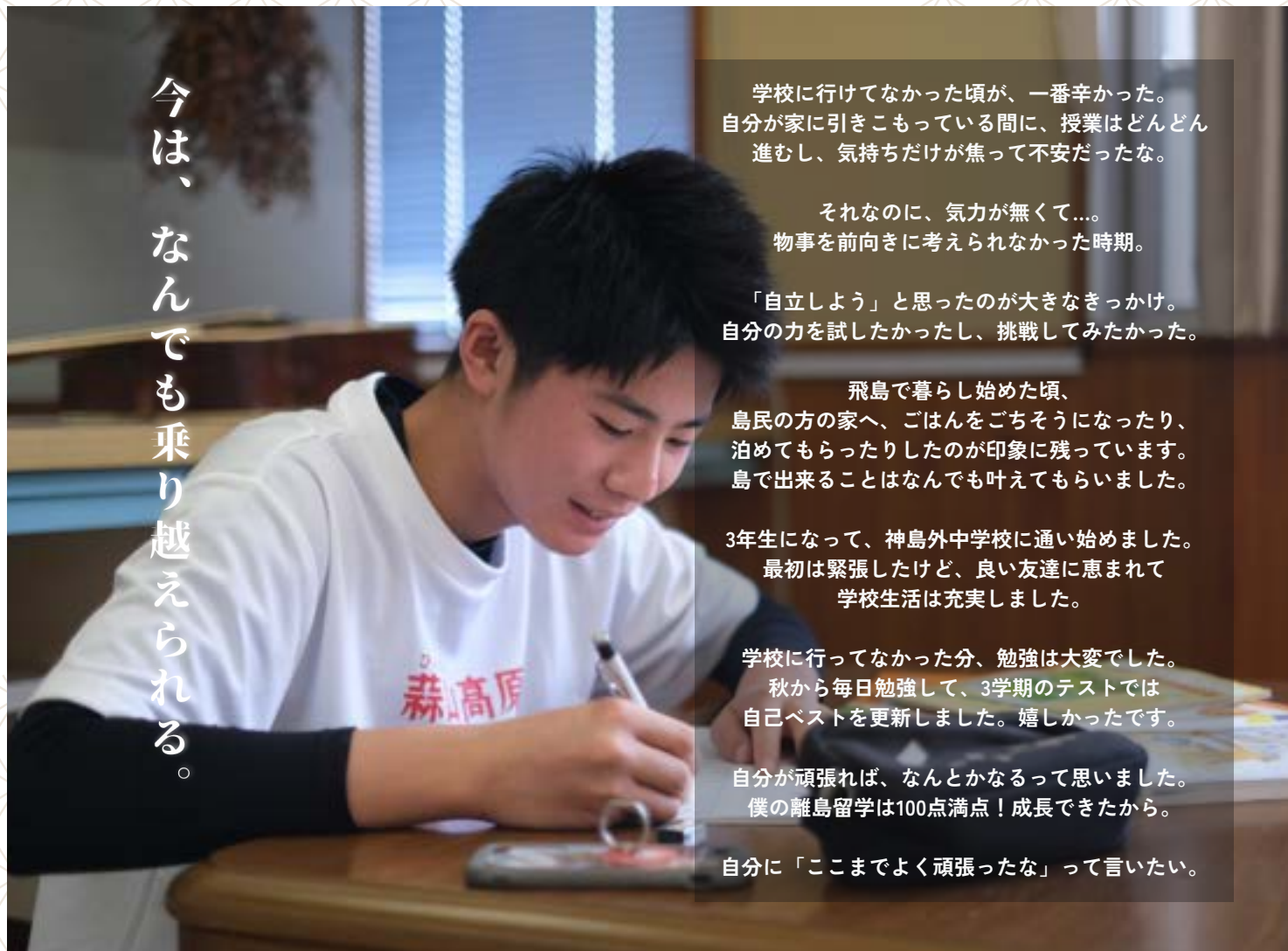
香本 悠真 さん



2021年11月～2023年3月

(岡山県 私立高校進学)

今は、
なんでも乗り越えられる。



学校に行けてなかった頃が、一番辛かった。
自分が家に引きこもっている間に、授業はどんどん進むし、気持ちだけが焦って不安だったな。

それなのに、気力が無くて...。
物事を前向きに考えられなかった時期。

「自立しよう」と思ったのが大きなきっかけ。
自分の力を試したかったし、挑戦してみたかった。

飛島で暮らし始めた頃、
島民の方の家へ、ごはんをごちそうになったり、泊めてもらったりしたのが印象に残っています。
島で出来ることはなんでも叶えてもらいました。

3年生になって、神島外中学校に通い始めました。
最初は緊張したけど、良い友達に恵まれて
学校生活は充実しました。

学校に行けてなかった分、勉強は大変でした。
秋から毎日勉強して、3学期のテストでは
自己ベストを更新しました。嬉しかったです。

自分が頑張れば、なんとかなるって思いました。
僕の離島留学は100点満点！成長できたから。

自分に「ここまでよく頑張ったな」って言いたい。



保護者's comment

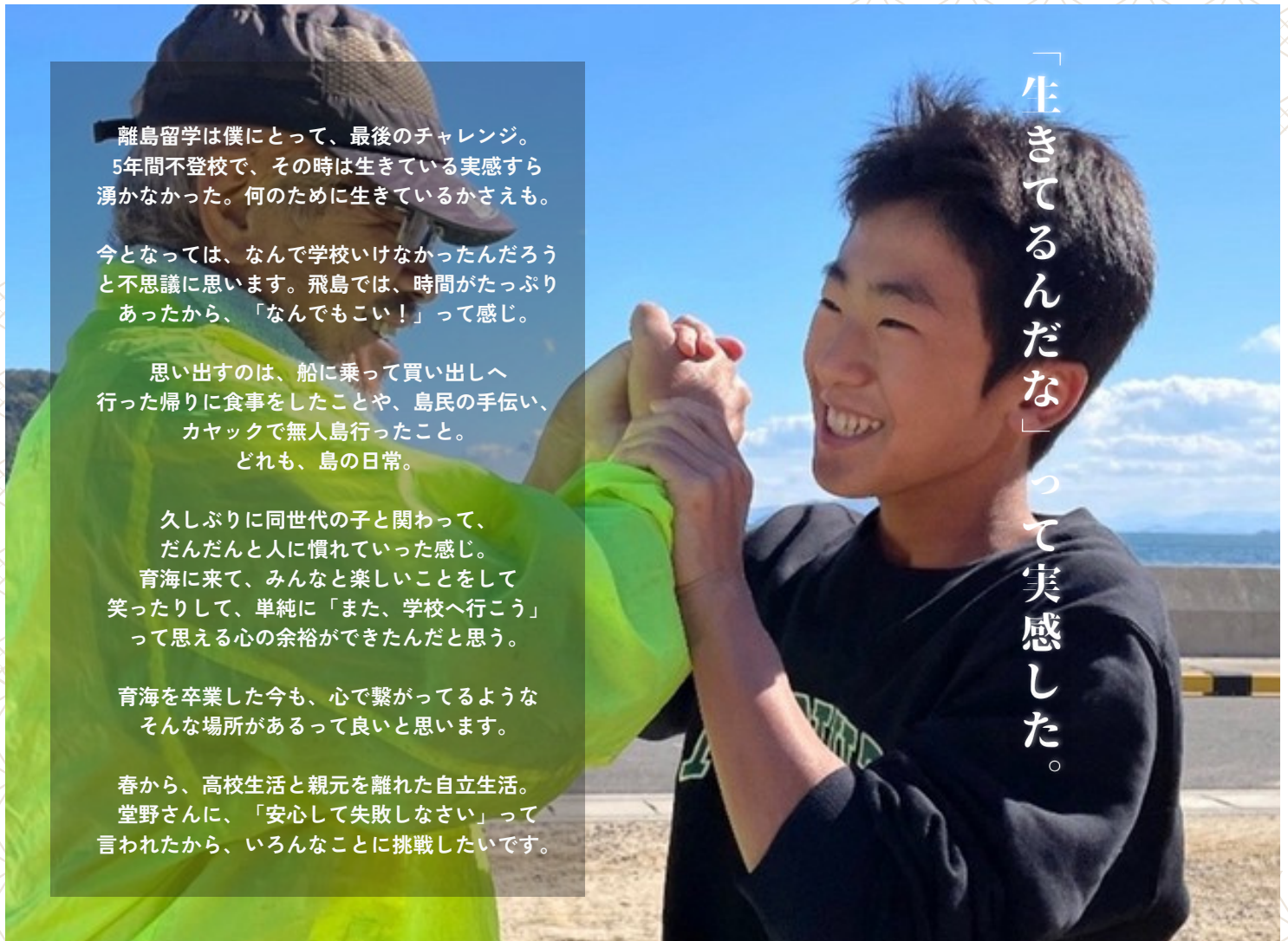
「人に見られたら嫌だ」と、自宅に籠り外出できなかったのが、もう思い出せません。家庭や都会では、味わえない非日常が育海には日常であったこと、またスタッフの方が絶妙な距離感で接し本気で向き合ってくれたのが良かったです。島民の方とのふれあひも楽しかったのだと思います。もう一つの故郷のように、感じているのではないのでしょうか。卒業アルバムは、育海らしさが溢れていて息子の宝物になると思います。親が見ても、ウルウルする言葉がたくさん書かれていて今後人生で疲れた時に開いてほしいと思います。



高木 悠太郎 さん

2022年3月～2023年3月

(広島県 公立高校進学)



「生きてるんだな」
って実感した。

離島留学は僕にとって、最後のチャレンジ。
5年間不登校で、その時は生きている実感すら
湧かなかった。何のために生きているかさえも。

今となっては、なんで学校いけなかったんだろう
と不思議に思います。飛島では、時間がたっぷり
あったから、「なんでもこい！」って感じ。

思い出すのは、船に乗って買い出しへ
行った帰りに食事をしたことや、島民の手伝い、
カヤックで無人島行ったこと。
どれも、島の日常。

久しぶりに同世代の子と関わって、
だんだんと人に慣れていった感じ。
育海に来て、みんなと楽しいことをして
笑ったりして、単純に「また、学校へ行こう」
って思える心の余裕ができたんだと思う。

育海を卒業した今も、心で繋がってるような
そんな場所があるって良いと思います。

春から、高校生活と親元を離れた自立生活。
堂野さんに、「安心して失敗なさい」って
言われたから、いろんなことに挑戦したいです。



保護者's comment

「一人の子どもを育てるには一つの村が必要だ」ということわざがあります。1年間の留学を終え、卒業式で堂々と卒業証書を受け取る息子を目にして、私は飛島がまさに息子を育ててくれた一つの村だったのだと改めて思いました。環境を変えることを息子が求めていました。子どもたちだけの共同生活は失敗もあったでしょう。スタッフの皆様が温かく見守ってくださり、息子は大きく成長しました。春から全日制の高校で同級生との共同生活。育海の経験があるので私たちは安心していきます。

清涼 慈恩 さん



2022年4月～2023年3月

(神奈川県 私立高校進学)

やるって決めたことは全力で。

「学校に行けてない」＝「行かないと何も見えない」だから、育海と出逢って少しずつ自分の未来について考えられるようになりました。

今思い返してみると、結構ギリギリの状態。人と話もしたくなかったな。

あれだけ嫌だった勉強も自分から「したい」と思えました。人との関わりのおかげで僕は成長できたと思います。

最初は、島民の方に覚えてもらわないと思っていただけ、みなさん「慈恩くん」って声かけてくれて嬉しかったです。

島民の方が優しくしてくれるから、僕にできることでお返ししたいと思い、草刈りや手伝いには積極的に取り組みました。

でも、純粹に仲間や島民の方と過ごすのが楽しくて。楽しいから草刈り行く、みたいな。

受験は正直きつかったです。でも、一番「行きたい」と思える学校に出逢ったから、「目標」があれば頑張れるって気づきました。

みんなと一緒にだったから、なんでも楽しかった。



保護者's comment

中2夏から不登校で苦しい日々。息子の意志で中3から心機一転するためチャレンジ。育海で暮らし、日々穏やかになっていく表情に安堵。大自然、仲間、スタッフ、島民の皆様との生活がかけがえのない宝物になったことは「島、最高！」と満面の笑みの息子から容易に想像できた。自主的に考え行動し、周囲を思いやる心を養い、自信を育み、高校進学の道を切り拓いた。見守り共に過ごすことが大切で、認めて待つことで信じる力が生まれると教わった。遅しく成長し、嬉しく誇らしい。皆様の温かい愛情に救われました。



小椋 絢心 さん

2022年8月～2023年3月

(通信制高校進学)

「自分の生活を変えたい」と思った。

自宅に居て、自分の好きなことだけをするのは、ある意味幸せだったと思う。

健康的な生活とは程遠くて、両親にも心配をかけたことは自分でも分かっていました。

このまま自宅で過ごしていてもきっと自分とは変わらないと思っていた。だから、違う生活を試してみることを決意しました。

離島留学で大変だったことは、朝早く起きて朝ごはんの準備をすること。僕が頑張れたのは、僕が当番じゃない日に仲間も作ってくれたから。

育海に居ると、「やりたいこと」がいっぱい生まれました。中華フルコースを作ったり、キャンプを企画して、テントで寝たり。

半年間、楽しくていい気分転換になりました。同世代のみんなとの暮らしや、島民の方との関わりは普段できない体験だったから。

悩んでいることは、堂野さんやスタッフに相談しました。どうやったら悩みを解消できるか、一緒に考えてくれたり、行動に移してくれました。

春から、高校生活と一人暮らしが始まります。自分の目標のために、頑張りたいです。



保護者's comment

引きこもり、会話もままならない息子でしたが離島留学を決めて、約7か月を過ごしました。生活は、育海の皆さんや島民の方の支援があってこそ、学校では体験できないものばかりで、生きる力、自信と希望に繋がりました。卒業式にとびきりの笑顔を見せてくれたのは涙が出るほど嬉しかったです。育海の皆さんは子どもへの期待や要求が強くなりがちな親に対しても冷静に対応して下さいました。息子は本来の姿を取り戻し、遅く成長しました。ここでのすべての経験は今後の人生の宝物です。親子とも感謝しています。

松尾 明日登 さん

2022年10月～2023年3月 (在籍中学校へ復学)

僕も人に優しくできるようになったと思う。
学校では人間関係をつくるのが難しくて苦手だった。
自分でも「このままじゃあかん」って思った。

離島留学はずっと憧れてました。
実際は楽しいことばかりじゃなくて、洗濯や掃除
を自分でするのは大変だった。家に居ると
家族がやってくれていたから、家族のみんなに
「ありがとう」って思いました。

飛島の人は、みんな優しくかった。通りがかる時、
頭を撫でてくれたり、ごはんを食べさせてくれたり
みんなが僕のことを孫みたいに接してくれました。

最初は仲間同士のコミュニケーションに気を
遣いました。お願いされることは、素直に受け
入れられるようになったかな。

大好きな釣りも思う存分やったし、
島民の方と磯へ出かけたり、一緒に
グランドゴルフをしたのも覚えています。

今の僕の夢は猟師になること。
飛島で、いのししがいっぱい獲れて、
いつも来てくれた猟師さんが
おもしろくて好きやったから。

みんなが、優しくしてくれたから。



保護者's comment

半年間の離島留学を終えて自宅へ戻ってきて、周りの人から息子の良い変化に気づいてもらい嬉しかったです。家族から見ても、以前より優しく素直になったと思います。飛島の島民の皆様が優しく受け止めて、認めてくださったのが何より息子にとって良かったのだと感じました。卒業式の日、息子に注がれる島民の皆様の愛溢れるまなざしを目の当たりにして、すごく大切にしてもらったのだと思いました。街では、すぐに消費してしまう心のエネルギーを、育海でたっぷり充電できました。

離島留学ある日の過ごし方

親元を離れて、仲間と飛島で暮らす。「暮らす」の基本は、毎晩のミーティング。

思ったことやお願いしたいことは、なんでも話そう。なんでも話すから、なんでもみんなで乗り越えられる。

「暮らす」ための日常は、全部自分たちです。掃除や料理、洗濯はもちろん、排水溝もトイレもお風呂も自分たちで掃除する。育海の離島留学は、みんなで作っていく。

6:30 起床
朝食準備

6:45 朝食

7:15 通学組はスクールボートに乗船
神島外中学校へ登校

8:00 掃除
学習等

9:30 船出迎え
午前中の活動
(畑や島民の手伝い等)

11:00 昼食準備

12:00 昼食
自由時間

13:00 午後の活動
(体育館遊びや釣り等)

14:00 船出迎え
活動の続き・自由時間

17:20 夕食準備

18:30 スクールボート到着
通学組は帰島

19:00 夕食

19:30 ミーティング

20:00 風呂

22:00 就寝

暮らすのすべてが学び

Anti-
aesthetic
of tea
leaves

育海からのメッセージ

代表 堂野 博之

2022年、育海の離島留学は日本財団「子ども第三の居場所」事業に認定されました。不登校・引きこもりの児童生徒を対象にした長期滞在型のプログラムは子どもたちの安心できる居場所として、規則正しい生活習慣や心身の健康を回復することを目的とした新しいかたちのコミュニティモデルとなりました。

育海での暮らしは、子どもたちが自ら考え、生活をつくっていくことを大切にしています。また、離島ならではの文化や行事、奉仕活動などは、子どもたちに島民の一員としての自覚を生むこととなります。島全体が活動のフィールドとなり、子どもたちは、温かく見守られながら確実に成長していきました。

この離島留学によって、飛島は子どもたちにとってのもうひとつの「ふるさと」となりました。飛島で暮らした何気ない日常は、いつまでもかけがえのない時間となって子どもたちの財産となるでしょう。



子どもたちが「生きていく」ことを、飛島の「暮らし」が支えています。大人が、10分で決めてこなせる事柄も、子どもたちにとって何時間も、何日もかけて乗り越えていくハードルです。それを、じっくりと見守り、抱きしめていくのが育海です。毎日のいろんな気持ちと仲良く暮らすことは、あっという間に子どもたちの心を溶かし、ここが「居場所」になっていきます。これからも続く長い人生の岐路でふと振り返った時、子どもたちの背中を押すようなそんな時間を過ごしていると思います。

副代表 日置 幸

子ども
第三の
居場所



Supported by



THE NIPPON
FOUNDATION